

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第31号

発行：平成27年9月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

イベント報告

●森の学習～春の草花の観察～(平成27年4月18日)

春の陽気の中、9名の方に参加いただき、草花の観察を行いました。

まず、花の形と昆虫に関係があることなどを解説しました。参加者にはチェックシートを使って名前や特徴の観察をしてもらいました。キク科の花が小さな花の集まりであることを紹介すると、驚きながらルーペで覗きこむ場面もあり、楽しみながら春の草花に親しんでもらうことが出来ました。



●森の音楽会(平成27年5月31日)

山本天馬氏とびばる～んさんによる森の音楽会を実施しました。2部構成で、まず「ちびっこ集まれ！」をテーマに「ドラえもん」や「ようかい体操」を演奏してもらいました。

子どもたちと一緒に歌って踊ると、とても楽しいひと時になりました。「癒しの玉手箱」と題した第2部では、落ち着いた雰囲気での演奏がなされ、美しい音色に魅了されました。合計188名の方が参加され森の館が賑わいました。



新園路開通

ショウジョウバカマの谷みちの中ほどにある源流部分は大雨が降るたびに崩落を繰り返し、平成26年の8月10日には園路の下までえぐられ危険度が増してきたため、新たな迂回路を設置することになりました。安全性と機能性を念頭に迂回路をどこに敷くかを綿密に検討した上で、平成27年3月28日のいっくんクラブの全体活動と、4月7日と4月21日の樹林活動で、実際の迂回路設置作業を行いました。



大仙公園の間伐材を譲り受け、その木を必要な長さに切りそろえ階段の横木や土止め用として活用しました。傾斜が急な階段が続くところ



では、ちょっと一休みできるような踊り場も設置しました。述べ48人の方が作業に参加し、全長56m、61の階段がある迂回路が完成しました。関連部署の立会が終わってから旧道に

進入禁止の看板をたて、6月2日から供用開始しました。

外部団体との連携企画：大人のための自然観察会

(平成27年6月14日)

きしわだ自然資料館の協力のもと、カタツムリの観察会を実施しました。初めにカタツムリとはどのような生きものであるかをスライドを使って解説したあと、野外に出て観察しました。野外観察ではきしわだ自然資料館専門員の児島格氏の指導を受け、潜む場所や種名、生態などを教わりました。当日の朝まで雨が降り、

曇り空の中での開催だったので絶好の観察日和でした。一方でカタツムリにとっても活動しやすい気候となったため、活動が活発になり、一ヶ所に留まらず分散したため探すのに苦労しました。イベント参加者、スタッフ合計14人で、朽木の下や葉の裏などを丹念に探し14種類のカタツムリが見つかりました。堺市のレッドリストに記載されているケハダビロウドマイマイやよく見られるクチベニマイマイなどが観察でき、参加者の方からは「カタツムリにこんなに種類があるとは思わなかった」等の感想が聞かれました。



森の利用 (学生・大人編)

当施設の利用者の多くは、乳幼児や小学生とその保護者の方です。大人の方だけのグループや個人での利用はまだ多いとは言えません。幅広い年齢層の方にご利用頂く事を旨とし、教員対象の研修会、大人限定の観察会の開催、市民団体の受入、大学実習生の受入、堺市が主催する事業との連携等を行っています。今後も、より多くの方にご利用頂けるよう、来園者のニーズを把握し、質および満足度の高い企画を実施していきます。

ふれあいの森の利用者の内訳



▼小学校・保育士研修会



堺市内の小学校や幼稚園、保育園で働く教職員を対象に、自然観察時の注意点や昆虫の体の仕組み、生きものの接し方など、講義と実技を交えながら行っています。

依頼があれば、各校園に職員を派遣し、現場の環境や要望に合わせて、動植物に関する講義や飼育法、扱い方、子供への伝えかたなど、その施設に特化した研修も行っています。



▼大人のための自然観察会



参加者は大人限定。草花や樹木観察など、大人の方のニーズが高い素材を中心に開催しています。特に初心者の方の自然に興味を持つきっかけ作りをしています。

▶森の手入れ体験

市民ボランティアと共に行っている「森の維持管理活動」を体験する企画です。現在は「はらっぱ広場」で下草刈りや間伐、堆肥場作り等の作業を行っています。



▼里地里山管理学実習



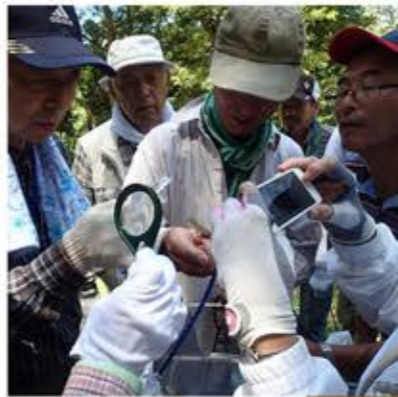
大阪府立大学と連携し、毎年「里地里山管理学」実習の場として、間伐や下草刈り、落ち葉掻き等を学生が体験しています。実習を通して、里山の豊かさ、重要性を学ぶ場を提供しています。

▶実習生受入れ

大阪大谷大学教育学部幼児教育専攻の職場体験として、イベント開催時に学生の受入れを行っています。野外で幼児と接する際の注意点、伝えかたなどを体験を通して学ぶ場を提供しています。



▼一般団体の受入れ



大人の学びの場として、団体の要望に合わせたプログラムを作成しています。里山の仕組みや生きものの生態についての講義を始め、自然観察や自然物を使ったクラフト体験等、四季折々の自然を体験出来る場を提供しています。

▶堺エコロジー大学との連携

堺市が主催する事業と連携し、里山の生態系についての講義や自然観察、夜間の生きもの観察など、年間を通じて様々な講座を開催しています。



ふれあいの森の活動風景① 「樹林管理活動」

木の間伐や下草刈りなど、気持ちよく散歩できる、森を森らしい姿にするのが樹林管理活動。その活動の様子取材してきました!



<8月 ネザサの刈取り>

8月の活動は、真夏の日差しを浴びてグングンと伸びるネザサの刈取りです。ふれあいの森が里山として利用されていた頃は、頻繁な草刈りによって抑えられていましたが、利用を止めてしまったことで、今ではネザサが勢力を増し、悩みのタネとなっています。



▲ネザサの刈取り

活動メンバーたちは、直径15mm、高さ3mほどにまで成長したネザサを一本一本ハサミで根元から切り取っていきます。厳しい暑さの中、汗が額を流れ落ちますが、「エアコンの中にいるより、外で汗をかいていた方が

気持ち良い」と、笑いながら木陰で休憩。木々を抜ける風が、体を優しく冷やしてくれます。

ふれあいの森を作る、「緑の下の力持ち」がこの樹林管理活動。メンバーは、元々森に関わる仕事をしてきた方や子どもの頃に森を遊び場として育った方、定年退職を機に活動を始めた方などルーツは様々ですが、「いい森を後の世代に残して行こう」と、思いをひとつに活動しています。



▲木陰でひと休み



活動プロフィール
活動日：毎月第1・第3火曜日
人数：32名

活動の世話役さんにインタビュー!

Q. 活動の目的(担う役割)は?

A. 自然と触れ合い、そして楽しめる森を作りその魅力を発信する事。

Q. 一番やりがいのある作業(仕事)は?

A. 地味でしんどい作業が多いが、散歩する方からねざらいの言葉をかけられた時。



いっちゃんクラブ 塩谷さん

Q. 活動はどんな雰囲気?

A. ボランティアが自主的に活動しているという、ふんわりした雰囲気。チームワークは良好です。

Q. みなさんに一言メッセージをどうぞ!

A. 私達が手作りしてつくり続けているこの森へ、何度もおいでください。



こちら森の放送局 (旬の動画をお届けします)

森の館ではスタッフが常駐しています。朝夕の巡視や日々の業務の中で、季節の移り変わりや動植物の「面白い」瞬間に出会うことがあります。ここでは、そんな瞬間を撮りためた動画の中からスタッフが厳選した3つを紹介いたします。まだ来園した事がない方、「面白い」瞬間を見たい方、おススメです。『QRコード』を読み取るか、パソコンにURLを入力して、森の中で動く生きものや風景をお楽しみ下さい。もちろん、実物も見に来て下さいね。

森の中で木を叩く音。その正体は、日本で一番小さなキツツキ「コゲラ」です。葉が生い茂っている時は姿を見るのは難しいですが、冬は葉が落ちていて、じっくり探すと見ることが出来ます。



https://youtu.be/YtCzmzoDzQY

コゲラ



https://youtu.be/9juGDbqtnfE

ナミアゲハの脱皮

今年も園内のカラタチやユズにナミアゲハが産卵しました。よく考えると、幼虫が脱皮をする瞬間を見たことが無かったので、飼育して観察してみました。特に足(腹脚)の動きが面白いですよ。

森は日々変化しています。スタッフでも変化に気づくのは難しいですが、写真を連続させると、木々の変化が良くわかります。ここでは4月~8月末までの森の様子をお楽しみください。

森の変化



https://youtu.be/balHCC5JlKM

来園者の声

皆様から寄せられたアンケートの中から、特に要望が多く寄せられた内容をご紹介します。

イベントの予約が取りにくい。直ぐに定員になるので、回数を増やすか参加人数を増やして欲しい。

ご迷惑をお掛けして申し訳ありません。直ぐに定員に達するイベントにつきましては、出来る限り回数を増やす対応を行っておりますが、農作物の収穫量やスタッフの人数、1日に開催出来るイベント数に限りがありますので、全てのイベントで実施するのは難しいです。

定員の設定につきましては、スタッフが参加者すべての方に目を配ることが出来る人数を設定しています。参加された方全員が当施設の自然に触れ、「参加してよかった」と満足していただくために、少人数制を取らせて頂いております。



「虫が嫌いという子どもに、興味を持たせるにはどうしたらよいでしょうか。実は私自身も虫が苦手です。」

と若い教員から尋ねられました。住宅密集地では、野草が生い茂る原っぱが減り、子どもたちが野草で遊んだり、虫捕りをしたりする機会も減りました。このような現状からは、仕方がない悩みなのかもしれません。

先ほどの質問を受けた時、教師生活の始まりである3年生担任時の記憶がよみがえりました。子どもたちとモンシロチョウの卵を探し、いつでも観察できるように私も含め1人1匹飼育しました。子どもたちは、学校の行き帰りも大事そうに飼育かごを持ち歩いていました。蛹が羽化すると、舞い上がり巣立っていくチョウに手を振り、お別れ会を毎日のようにしていました。毎日世話をしてきたからこそ、子どもたちも巣立ちに、寂しさよりも喜びをもって送り出せたのでしょう。



まず教師自身も日々昆虫に接し、世話や観察を続けることで、生きとし生けるものとして小さな虫に命を感じ、情もわいてくるのではないのでしょうか。

今春、堺自然ふれあいの森から講師を迎え、チョウの雄雌の区別の仕方や餌となる葉の違い、チョウへの餌の与え方などの研修を行いました。昆虫の生態理解が進む一方、質問も増えました。専門知識を学ぶことは教員自身の大きな興味につながりました。

夏には、堺自然ふれあいの森の施設を利用し、里山に入り昆虫採集、その場で名前も同定しました。「虫を捕まえたのは随分久しぶりでした。手にもってじっと見ていると、昆虫の体のしくみに興味がわいてきました。子どもたちにもぜひ見せたい！という思いを強くしました」との感想も寄せられました。実物に触れ合うことは、好奇心をよりくすぐり、次の活動への原動力になるのだと思います。

堺自然ふれあいの森には豊かな自然や様々なプログラムもあり、自然にどっぷりとひたることができる場所です。自然に触れ、命を感じてみてはいかがでしょうか。



●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ（指定管理者）
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所と
NPO法人いっちゃんクラブの連合体です。

交通
案内

お車の場合は
「堺公園墓地」
を目指してお越
し下さい。



堺自然ふれあいの森